

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	政策	-	11	式典等事業				☐ 法定受託事務
所管課	政策部 秘書課				評価者	秘書課長 吉田 寛樹		
一般	会計	款	10	項	5	目	5	
総合計画上の位置付け	分野名	行財政運営			施策の方針名	行財政運営		

1 事業の目的

対象	市民等	意図	市政の振興に功労のあった者の栄誉をたたえるため。
効果	市政の振興に功労のあった者の栄誉をたたえることにより市の発展に資する。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	市政功労者事務、頌徳会事務、名誉市民事務	市政功労者事務、頌徳会事務、名誉市民事務	市政功労者事務、頌徳会事務、名誉市民事務
予算額（千円）	2,088	2,240	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	2,088	2,240	0
当初人員配置数	3.0	2.0	0.0
人件費（千円）	25,611	17,652	0
事業実績	市政功労者事務、頌徳会事務、名誉市民事務		
決算額（千円）	1,010		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	1,010	0	0
人員配置実績数	2.0	0.0	0.0
人件費（千円）	16,566	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名					（上段実績、下段経費（千円））		
活1	実績につながる活動							

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・顕彰することが事業目標であるため、数値目標の設定になじまない。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1								

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・顕彰することが事業目標であるため、アウトカム指標の設定がなじまない。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
		評価実施年度の方向性 ⇒	評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☐ ① 事業内容は現状通りとする ☒ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ① 予算規模は現状維持とする ☒ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容
	前年度の新たな課題への対応結果		未解決	表彰基準の見直し要望を受けており、現行基準の妥当性について検討を進めている。
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	表彰基準の見直しを求める意見が寄せられており、現行の「市政功労者」「名誉市民」の選考基準が時代の変化や市民ニーズの多様化に対応しているか、基準の妥当性を検討する必要がある。
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新規事業の必要性はない	現行制度の見直しを予定しているため、新規事業の必要性はなし。	
	総評	市政功労者等の栄誉や功績を称えることにより、市民の自治意識の向上と地域の発展に寄与していく。		
				上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		事業の性格上、市民の功労・市民の功績に対する敬意を示す式典の開催に係る事業であることから、単純に数値を用いた比較にすることが馴染みない事業であると考え、比較は実施しない。							